

L-INSIGHT/KURA連携プログラム

パブリッシングセミナー「ジャーナルをたちあげる」2021/1/19

英文誌の刊行準備

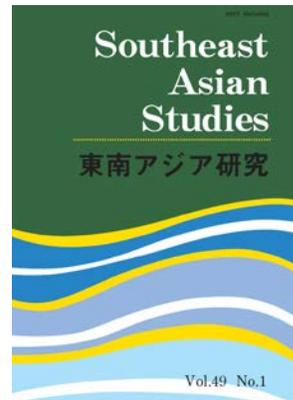
—*Southeast Asian Studies*を事例に—

京都大学東南アジア地域研究研究所 設楽成実

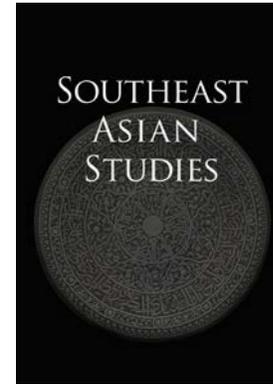
(一部修正して公開)

刊行の背景

機関誌の国際発信力を高めたい。

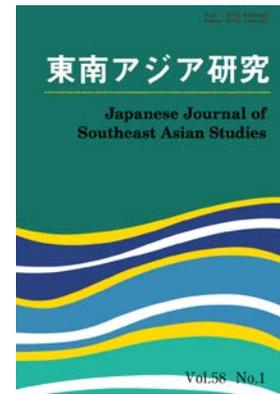


『東南アジア研究』
1963年創刊の機関誌
日・英



Southeast Asian Studies

2012年、年3回刊行の
英文誌として創刊
オープンアクセス
独自ウェブサイト、
J-STAGE、KURENAIなど
で公開



『東南アジア研究』

2012年、年2回刊行の
和文誌に再編
オープンアクセス
独自ウェブサイト、J-
STAGE、KURENAIなど
で公開

刊行準備

1. ミッション&ビジョン
2. 体制づくり
3. ルールづくり
4. 誌面&ウェブサイトのデザイン
5. 各種申請手続き
6. 広報

① ミッション & ビジョン

- どのようなジャーナルを目指すか？ 内容&読者
 - ➡Aims and Scopes、Title、原稿のカテゴリーなどの決定
 - ➡予算（機関負担？著者負担？図書館等による購読？）
 - ➡形態（オンラインのみ？プリント+オンライン？プリントのみ？）

- どのような展開を目指すか？

SEASの場合：自分たちが良いと思う雑誌をコツコツと刊行し、評価を高めてゆこう。評価は後からついてくる。

あえて指標をあげるようなことはせず、SCOPUS→Emerging Sources Citation Index→Web of Scienceの順で目指す。

②体制づくり

- Editorial Boardの設置
- Book Review Editorの設置
- International Advisory Boardの設置
- 査読プロセス、ワークフローの作成（担当者の割り振り）
- 年間スケジュールの作成（期日通りの刊行はマスト）
- 査読者リストの作成
- 発送リストの作成
- コピーエディターの確保
- 組版、印刷業者の確保
- ウェブサイトの管理業者の確保
- 電子投稿システムの導入
- 各種証明書の作成

③ルールづくり

- Instructions for Contributors (→次スライド参照)
- Bibliographical Guidelines
- Guidelines for Special Issue Editors (特集号の引用は通常論文より多いとの調査結果もある)

- 著作権
- ライセンス ([CCライセンス](#)など)、著者サイドの公開に関する規約
- 倫理規定 (Ethics) [COPEウェブサイト](#)などを参考に
- アーカイブの方針

投稿規定に 必要な項目

Items to include in the Instructions for Contributors

1. A Statement of the scope of the journal (subject areas to be covered, intended readers)
2. The types of articles
3. The type of peer review
4. The format of submission (paper or electronic; specify acceptable file formats for both text and artwork)
5. The preferred style to follow in preparing the submission (Chicago Manual Style, APA style guide, etc.)
6. What forms must be included with the submission (Copyright Transfer/ License to Publish, conflicts of interest, permissions, human or animal subject protocols)
7. Fees (mandatory or optional)
8. Where submissions are to be sent (postal address, e-mail, website)
9. Whom to contact with queries about submitted paper
10. The procedure for proof correction
11. Journal policy on **Copyright Transfer** or **License to Publish**
12. Journal policy on **self-archiving** (what version, if any, may be deposited, when, where and under what conditions? Ex: a link to the published version)

(Sally Morris *et al.* 2013 : 49)

④誌面 & ウェブサイト

- 表紙のデザイン
- 誌面のレイアウト

科学技術情報流通技術基準
「学術雑誌の発行と構成」
に詳しい規則の説明あり

- ウェブサイトのデザイン

ソフトウェアは？掲載する項目は？論文公開の形式は？

(SEASの場合：WordPressを使用、論文公開はPDF+HTMLで)

- アクセス解析ツールの設置

(SEASの場合：Google Analyticsを設置。外部業者より1年に一度、アクセスレポートとSEO対策案の作成)

⑤取得手続き

- ISSN/ Online ISSN

[国立国会図書館](#) ISSN日本センターに申請

- DOI（デジタルオブジェクト識別子）

CrossRef DOI やJaLC DOI など

機関リポジトリ、J-STAGEなどを通し付与。または、[ジャパンリンクセンター](#)（JaLC）へ直接問い合わせ。

*海外の出版者、データベースサービスへの展開を希望する場合にはCrossRefのDOIを選択すると効果的／DOI登録件数に応じてCrossRefの定める登録費用が別途かかる。（JaLC HPより）

- ウェブサイト用のドメイン

⑥ 広報体制

*Southeast Asian Studies*の取り組み事例

- メーリングリスト
 - SNS（Facebookを運用中、Twitterがベターとの助言もあり）
 - リーフレット／しおり
 - 他誌との広告の相互掲載（無料の範囲で）
 - 国際会議でのブース出展（ほんの時々）

 - Visibilityの向上に向けて→リポジトリへの登録や、学術雑誌データベースへの収載
KURENAI／EBSCO／ProQuest
- http://wiki.publishing.umich.edu/Overview_of_Journal_Indexes_and_Aggregators
- 信頼性の向上に向けて（オープンアクセスジャーナルの場合）
→[DOAJ](#)への登録（申請準備中）

いくつか反省 点など・・・

- 電子書籍化(EPUB, mobi) を早くに進めていたが、ダウンロード数が少なく撤退。ただ、モバイル端末での閲覧数が増えていることを考えると今こそすべきかも？
- XMLへ未対応
- 図書館からのプリント版の辞退は年々増加。プリント版の継続については海外（地域ごと）のインターネット事情や図書館の方の意見を基に考える必要がある。
- オンライン投稿システムを導入。英語のみの画面設計としたが、日本人研究者にとってはやはり日本語画面もあるほうが便利であったと反省。
- 『東南アジア研究』の英文タイトル *Southeast Asian Studies* を新しい英文誌に用いることになったが、データベースなどで色々と混乱。

悩み . . .

- 経費が増大ぎみという悩み
- オンラインジャーナルに必要な専門的な知識や技術が日々進歩してゆく焦り



ジャーナルの刊行体制を、刊行部局を超えた大学全体の協力の中でおこなえるとより効果的・経済的な刊行につながるのでは？

たとえば、公開・広報に関する作業など。

ありがとうございました

- shitara@cseas.kyoto-u.ac.jp
- [紀要編集者ネットワーク](#)の活動にご興味ありましたら、是非お声かけください！

参考資料

マニュアルなど——

- Sally Morris *et al.* 2013. *The Handbook of Journal Publishing*. Cambridge University Press.
- [SIST科学技術情報流通技術基準](#)
- [Resources for Editors of Scholarly Journals: Launching a Journal: Getting Started](#)
- [How to Start Open Access Journals](#)

参考資料

国内の学術誌の取り組みについては——

- [「「情報管理」誌の記事から 最近10年間の情報流通分野の動向を俯瞰する」 『情報管理』 60（12）：919-932](#)
- [J-STAGE News/イベント報告](#)
- [SPARC Japan Newsletter/セミナー報告](#)など

学術出版をめぐる世界潮流については——

- [カレントアウェアネス・ポータル](#)
- [The Scholarly Kitchen](#)など